

漁海況月報

No. 10

平成 16 年 10 月 1 日

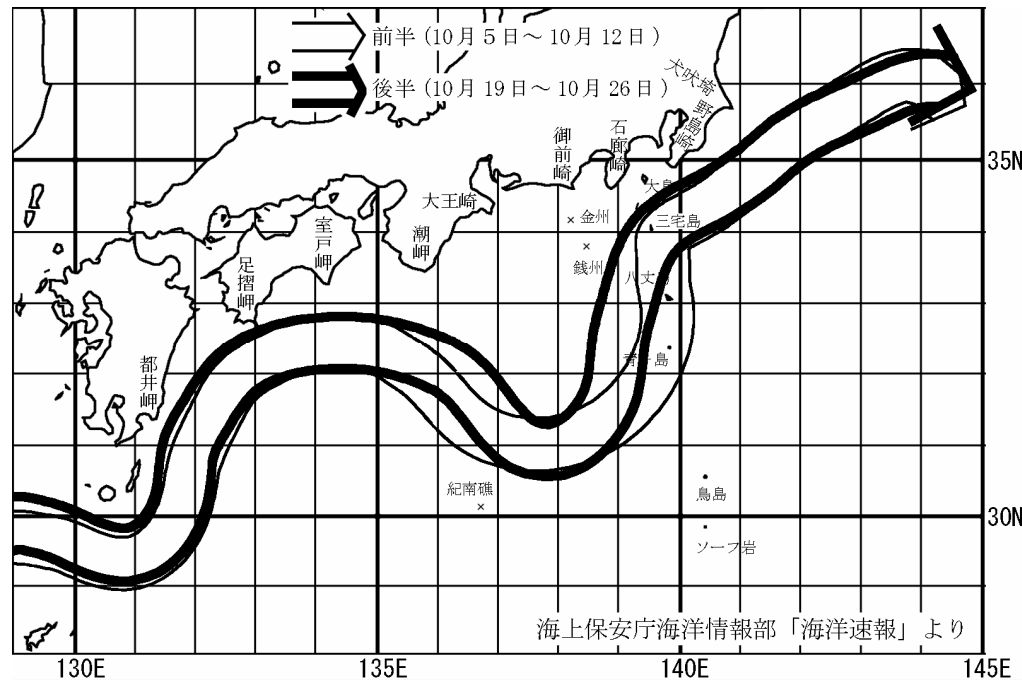
～ 10 月 31 日

静岡県水産試験場

(電話 054 627 4815)

静岡県水産試験場伊豆分場

(電話 0558 22 0835)



【黒潮流路】

黒潮は、上旬前半に一時的なC型流路を示し伊豆諸島の東側東経 140° 付近を北上したが、上旬後半には再びA型流路となった。一時的なC型流路は表層だけの現象と思われた。黒潮は前月に引き続き石廊崎に接岸していたため、相模湾、駿河湾には暖水波及が継続し、稲取～焼津の各定地水温は平年並みから高めで推移した。

【県下沿岸域】

定地水温は、相模湾側では 20～25 台、駿河湾東部では 20～26 台、駿河湾西部では 19～26 台で経過した。全ての測点で平年を 1～2 以上上回る水温を観測した。黒潮大蛇行により暖水が沿岸に継続して運ばれていると考えられた。

【竿釣近海カツオ】

10月の県内主要5港（沼津、清水、焼津、小川、御前崎）における近海カツオの水揚量は93トンで前年同期の266%であった。魚価は626円/kgで、前年同期を大幅に上回った。

中型竿釣船の記録（QRY）及び御前崎市場での調査によれば、10月の漁況はおおむね以下のとおり推移した。

上旬は 39°N、143°E を中心とした三陸沖及び 35°30'N、141°30'E を中心とした房総沖に漁場が形成され、極小、チン、小、中カツオを漁獲した。中・下旬には相模湾及び駿河湾沖にも漁場が形成され、極小、チン、小、中、大カツオを漁獲した。また、下旬には 30°N 以南でも操業し、極小、チン、小、中カツオを漁獲した。

静岡県近海では、大室出し、銭洲周辺で操業し、体長 35～76cm のカツオを漁獲した。

竿釣近海カツオ水揚量 (県内主要5港)

期 間	水揚量 (トン)	水揚隻数	水揚量 / 隻 (トン)	平均単価 (円 / kg)
16年10月上旬	15	6	2.5	646
中旬	45	20	2.3	537
下旬	33	28	1.2	739
16年10月計	93	54	1.7	626
15年10月計	35	13	2.8	349
14年10月計	21	11	1.9	633

【まき網】

小川港では、マイワシは345.3トン水揚され、平年同期（過去5か年平均：154.6トン）の2.2倍と好調であった。カタクチイワシは水揚されなかった。

沼津港では、マイワシは689.6トン水揚され、平年同期（207.0トン）の3.3倍と好調であった。カタクチイワシは水揚されなかった。

静浦港では、マイワシは43.3トン水揚され、平年同期（41.2トン）の105%と平年並みだった。カタクチイワシは67.8トン水揚され、平年同期（26.2トン）の2.6倍と好調であった。

伊東港では、マイワシは8.4トン水揚された。カタクチイワシは水揚されなかった。

2004年10月

定地水温の旬平均値 ()

(下段は偏差)

期 間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津	地頭方
上 旬	23.6	24.5	24.1	25.1	25.2	24.6	22.8
	1.5	1.5	1.1	1.5	2.2	2.1	0.4
中 旬	22.0	23.7	23.3	24.0	24.0	22.5	21.3
	0.5	1.3	1.1	1.6	1.6	0.8	0.0
下 旬	20.8	22.1	21.9	22.7	22.7	22.1	20.1
	0.2	0.4	0.6	0.7	1.3	1.3	0.1
月平均	22.1	23.3	23.0	24.0	23.9	23.1	21.4
	0.7	1.0	0.9	1.2	1.7	1.5	0.2

[シラス船曳網]

1日1か統当りの水揚量は、駿河湾で88kg、遠州灘で100kgだった。主要6港平均では95kgと前年同期(312kg)の30%、平年同期(過去5か年平均:271kg)の35%であった。10月の総水揚量は165.9トンと、前年同期(916.8トン)の18%、平年同期(605.4トン)の27%に当り、極めて低調であった。平均単価は1,521円/kgと前月より上がり、平年同期(687円/kg)を大きく上回った。

シラス水揚量(主要6港)

漁港	水揚量(トン)	日数	延統数	平均漁獲量(kg/統・日)	平均単価(円/kg)
新居	12.4	15	181	69	1,804
舞阪	42.7	12	422	101	1,379
福田	38.2	14	347	110	1,343
御前崎	15.6	13	144	109	1,622
吉田	36.7	14	346	106	1,520
静岡	20.2	13	304	67	1,906
平成16年10月計	165.9	-	1,744	95	1,521
平成15年10月計	916.8	-	2,934	312	715
平成14年10月計	606.9	-	2,376	255	1,052

[サバ棒受網]

10月に小川港に水揚げされたサバ類は655トンで、すべてゴマサバであった。高瀬を中心とする漁場で操業し、漁獲されたゴマサバのほとんどが体長25cm以下の今年生まれの2004年級群であった。漁獲量が多いことと、小型であることから1kg当たりの平均単価は27円と極めて安かった。

小川港 サバ類(棒受網漁業)水揚量

期間	水揚量(トン)	日数	延隻数	1隻当り(トン)	漁場
平成16年 上旬	299	2	8	37.4	高瀬、三宅
10月 中旬	279	3	8	34.9	高瀬、利島
下旬	76	1	4	19.1	高瀬
計	655	6	20	32.8	- - - - -
平成15年10月	806	7	35	23.0	高瀬、三宅、銭洲
平成14年10月	645	10	42	15.3	高瀬、三宅、御蔵

[定置網]

平成16年10月、伊豆半島東岸大型定置網8か統(伊豆山、古網、赤石、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)における水揚量は314トンであった。1漁場当たり水揚量39.3トンは、前年26.0トンの1.5倍、平年値(昭和57~平成15年平均値)40.3トンの97%であった。

魚種別にみると、サバ類94.3トン(前年の2.3倍、平年の1.3倍) マアジ63.8トン(前年の1.5倍、平年の2.0倍) イサキ51.7トン(前年の5.1倍、平年の4.3倍) さばっこ27.6トン(前

年の176倍、平年の7.2倍) わらさ12.7トン(前年の979倍、平年の3.8倍)の順に多かった。

銘柄わらさは谷津及び北川を中心に入網し、魚体重の中心は3~4kgであった。10トン以上のわらさの水揚は平成6年以来であった。サバ類は赤石及び伊豆山を中心としてゴマサバ主体で入網し、ゴマサバの尾叉長の中心は23~26cm及び29~35cmであった。マアジは赤石及び谷津を中心に入網し、尾叉長のモードは15~17cmであった。イサキは川奈及び北川を中心に入網し、昭和57年以降では最も水揚量が多く、尾叉長の中心は14~17cmで小型魚が主体であった。さばっこは川奈を中心にゴマサバ主体で入網し、尾叉長の中心は21~25cmであった。

漁場別水揚量は、サバ類及びマアジの漁獲が多かった赤石(72.1トン)、さばっこ及びイサキの漁獲が多かった川奈(67.6トン)、マアジの漁獲が多かった谷津(40.6トン)の順であった。

[調査船の動向]

富士丸

10月28日 ペンドック修繕工事終了のため、三保造船より回航(1日間)

駿河丸

10月4日 ペンドック修繕工事終了のため、清港ドックより回航(1日間)

10月7~8日 地先定線観測(駿河湾・遠州灘・伊豆)(2日間)

10月12日 駿河湾内にて公共用水域水質調査(1日間)

10月13日 波勝崎沖にてマリンロボ調査(2日間)

10月14~15日 駿河湾内にてサクラエビ IKMT 調査及び産卵調査(2日間)

10月25~26日 駿河湾内にて名古屋大の地殻変動計調査(2日間)

10月27日 駿河湾内にてサクラエビ産卵調査(1日間)

10月28~29日 久能沖にてトラフグ試験操業(2日間)